

【畜産】の【長雨・日照不足】対策について

<7月>

農業経営支援課

【飼料作物】

(1) 予想される被害状況

- ・長大作物（飼料用トウモロコシ、ソルガム類）の収量減
- ・暖地型牧草（ローズグラス、ギニアグラス、スーダングラス等）の収量減

(2) 事前対策

- ・長期間の冠水により湿害が予想されるので、ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。

(3) 事後対策

- ・冠水した場合は速やかに排水するとともに、水が引いた後、10aあたり窒素成分で1kg程度の追肥を行う。
- ・飼料用トウモロコシの二期作目の作付け準備（施肥管理、品種選定）を確実にを行う。

【畜産全般】

(1) 予想される被害状況

- ・畜舎内の湿度上昇や雨の打ち込みによる床湿りや、アンモニア発生による舎内環境の悪化。
- ・雨上がり後の急な舎内温度上昇による熱射病の発生や生産性の低下。

(2) 事前対策

- ・定期的な敷料交換及び舎内の換気扇送風による床の乾燥。

(3) 事後対策

- ・床湿りした床材の交換及び水分調整のための乾燥した敷料の投入。
- ・カーテンの全開や、換気扇の直接送風により家畜や鶏の体温を下げる。
- ・舎内湿度が高い場合は、散水や細霧装置の利用は控える。